

平成26年度第6回墨田区区民行政評価委員会 会議概要

会議名称：第6回墨田区区民行政評価委員会

開催日時：平成26年9月4日（木） 午後1時30分～午後4時30分

開催場所：墨田区庁舎8階81会議室

1.【開会】

2.【議題】

鏡会長から、区民行政評価委員会報告書案の内容点検に当たっての説明が行われた。（委員会総合評価理由、複数意見および個人意見の内容について、間違いがないか、発言の趣旨が違ってないか、誤字・訂正等がないかについて確認）

「私道整備助成事業」

【主な意見等】

（福井委員）：整備した後の道路管理・維持管理の視点も考えなければならないといった管理の話があったので、そのあたりを書いた方がいいのではないか。

（河上副会長）：補助が申請ベースだということに集約されているので、その点についても触れていいのではないか。具体的な論点やキーワードを入れた方が担当課にも趣旨が伝わるのではないかと思う。

（鏡会長）：委員会の複数意見は横断的に出てくる可能性がある。評価はCかもしれないが、Bの人でCと同じように複数意見が出る場合もある。いずれにしても多様な意見が出たということで複数意見は残した方がいいのではないか。

（牟田口委員）：維持管理はきちんとすべきだが、今のまま固定化されてはいけないということで、100%補助がそのままではなく、高機能化させていくとか、基本理念になるのか、どこかに入れたらいいのではないか。

(鏡会長): 全体評価を入れて、その下に複数意見を入れてはどうか。河上副会長の意見だけではなく、例えば「補助が行われているが、現在の補助率の根拠が不明確であり、区の施策の方向性が見いだせない」といった補助率に関する意見も入れたらどうか。

(齋藤委員): 私道に関して奥にある家の資産としてキープするという話がでていた。区が私道整備を補助することが、住宅の資産価値の向上に寄与することになる。

(河上副会長): 住宅の資産価値の向上に寄与するといった側面がある点と報告書案に記載されている複数意見の「区民の平等」はどういう意味なのか。この中には、資産形成や公益性の話しの両方の意味が含まれているかと思われるが、複数意見として残ればわかりやすい。

(鏡会長): 意見が割れているのでまとめると、全体として、委員会評価の理由を記載するというのと報告書案の複数意見も掲載する。補助率の関係と申請ベースで補助が行われることも載せていくという形で具体的な話をフォローするということとしたい。

「防犯灯補助事業」

【主な意見等】

(高橋委員): 総合評価理由に「補助制度自体のあり方の見直し」と書かれているが、「C」という評価の理由と整合性がないように感じた。他の委員の皆さんの意見を見ると、設置基準や補助の中身の見直しなど、補助の効果は認められるがどのように補助金を出すかについて言及されており、制度の見直しについては言及されていない。

(鏡会長): 制度そのものより基準や金額についての見直しなのか。補助制度自体の見直しだと、この補助金はいらないということになる。改善すべきは、「補助制度のあり方」でなく、「基準や金額の見直しが必要」としたい。

「ふれあい給食事業」

【主な意見等】

(牟田口委員): 同じ保育園だけがやっていて広がりがなく、事業の中に埋もれているという意見だったと思う。補助がなくなれば保育園は事業をやめるものなのか。この補助金がないとできない事業なのか。

(鏡会長): C評価なので、補助の効果が認められるとの意見である。やめるということではなく、拡充しても効果が見えないので、やり方を工夫してということだと思う。

(大竹企画・行政改革担当課長): 報告書案に記載されている「実施主体の多様化や保育園施設以外でも検討する」という言葉は、このフレーズの前で切った方がいいのではないか。「実施主体の多様化以降」は、「また」以降にいはてはどうか。「高齢者の孤独解消や地域社会との交流...(中略)...補助対象の保育園の参加が増えていない状況である。」で切って「また、参加する高齢者を固定化させない工夫や...(中略)...補助期間を設定する」とした方がつながるのではないか。

「教育研究奨励補助事業」

【主な意見等】

(河上副会長): 牟田口委員の「今後の方向性として地域資源をもっと有効活用して欲しい」という意見は、委員会の総合意見と複数意見のどちらにも入っていないので、複数意見の3番目に入れていただいた方がいいと思う。

「その他のスポーツ振興事業」

【主な意見等】

(高橋委員): 総合評価案に記載されている「交付金の対象となる基準を明確にする」というのは、対象の事業なのか、スポーツの内容なのか、経費の対象なのか、何であるのか。

(事務局): 「補助団体」が固定化しているとのことで、対象の補助団体につい

での記述である。確かに不明確な書き方になっているので、「団体選定の基準を明確化する」としたい。

(牟田口委員): 基準が明確化すると努力できるのでいい。また、もう一つ言いたいのは、体育とスポーツの違いについて、教育の中で概念転換が行われているのかどうかである。

(河上副会長): 総合評価理由と複数意見の両方で、「補助金対象の基準」という言葉が出ているが、複数意見の1番目は、「団体選定の選定基準」、2番目に「補助金の金額とか精算方法の見直し」と書き分けた方がいい。

(鏡会長): 牟田口さんの言われたことは、評価シートでは、「いつもスポーツを楽しむ割合」と書きながら、限定的なスポーツにしか出していないということか。

(牟田口委員): 補助金申請の基準を明確するということが大事だと思う。

(河上副会長): 先ほどの教育研究奨励補助事業の中で地域資源を3番目に入れていただいたが、ここも報告書案(31、32ページ)の中で、「子供の需要の把握を検討する」とか「様々な寄付や個人の参加料を求める」とか今後のあり方の提案もあるので、うまくつないで複数意見の3番に入れてはどうか。

「地域体験活動支援事業」

【主な意見等】

(牟田口委員): 教育委員会の中でマンパワーが足りず、担当課はやめたいような話であった。「ニーズがあれば拡充していただきたい」と書いていただければいいのではないか。

(鏡会長): 地域のコミュニティができているところとできていないところとがバラバラなので、もう少し事業を見直す必要があるのではないかと思う。

(鏡会長): 報告書案中の「補助金を受ける側の需要」を「地域のニーズ」に修正する。また、複数意見がもう少しあってもいいかもしれない。

(河上副会長): 複数意見ではなく、総合評価の理由の書き方だが、D評価なので、3行目は「検討が必要」でなく、「見直すべきである」と言い切ってもいいのではないか。

「交通バリアフリー事業」

【主な意見等】

(鏡会長): 国や都の補助事業に上乘せするような説明があったのだが、その後、区単独の事業とのことで、カテゴリーは奨励事業である。何がメリットだったのか、ぼやけてしまった。

(河上副会長): 総合評価と複数意見がほぼ同じ文言なので、鏡会長の意見にあるように、具体的な意見「多額の税金を投入しているので...補助金を出すメリットを説明してほしい」という点を複数意見に入れたらどうか。多額の税金という意味では、牟田口委員の住民参加や第三者評価のしくみなどについても、加味していただいてもいいのではないか。

(福井委員): 説明責任ということからも、金額が多額だということは載せてもいいのではないか。

「区民団体の音楽・文化活動育成事業」

【主な意見等】

(齋藤委員): 高橋委員の「区民参加率の増加を目指すなら」、萩原委員の「団員区民率が低下している」という意見を踏まえ、複数意見に「区民率を出すべき」と書かれているが、全体の意見としては、盛り上がりにかけているということであって、「区民率ではなく参加が少なく活発にすべき」という意見を入れた方がいいのではないか。トリフォニーホールを作ったときの経緯や「第九」を国技館でやっている経緯もあり、墨田区はどうしても続けなくてはいけないということで進めてきたのではないか。墨田区は文

化のバロメーターとして、参加者が多いと言おうとしているので、もう少し強く言ってもいいのではないか。

(鏡会長):「様々な区民が文化活動に参加できるような幅広いしくみを作るべきである」ということでいいか。

(河上副会長): 報告書案の 46 ページには、個人評価の意見として「国技館」と具体的に書いてもらっているが、総合評価理由の文書に「今後は適用拡大や企業との連携も」の文言を加えていただきたい。

「消防団運営事業」

【主な意見等】

(河上副会長): 報告書案の 49 ページの複数意見であるが、3 番目の「町内会に若い人たちを組み込んでいく」は、ここでは飛びすぎている気がする。それよりも、50 ページの鏡会長の意見である「常に変化していることを意識しながら…」の文章を入れたらどうか。

(齋藤委員): 複数意見の 1 番目と 3 番目は同じことを言っているので一緒にしたらどうか。例えば「団員の構成年齢が高いので、町内会の若い人を組み込んでいくことも考え、若い人が入ってくるしくみを作る」。

(鏡会長):「非常に大きな金額を使っているので、安心安全のしくみとしていないということにはならないので、様々な工夫をしながら見直してほしい」ということでいいか。

「区民消火隊事業」

【主な意見等】

(河上副会長): D 評価とした委員が 5 人もいるので、「見直すべきである」と強調して、他との差をつけてもいいと思う。また、報告書案 53 ページの複数意見の 3 番目は、鏡会長の一文の後半部分だけを引用しているので、前半部分も入れた方がいい。

(鏡会長):「常備消防組織」がやってきた役割を考えると、区民消火隊に消火活動を依頼するより、119番の方が早い。実態としては機能していないのではないか。区民消火隊は、消火活動をする役割ではない。「常備消防が整備されているので、区民消火隊の必要性は現在では低くなっている」と直した方がいい。また、消防関係の補助金が他にもあるので、「他の補助金ともあわせて総合的に検討すべき」という一文も入れた方がいい。

(牟田口委員):消極的と取られるのではなく、若い人、特に子供達の消防に対する意識付けという意味では認められるものもあるのではないか。現実に関心があったときに備えて意識付けをしておくことが非常に大事である。子供に与える影響はこれを活用したらいいと思うので、どこかに書いたらいいのではないか。

「住民防災組織活動及び装備強化事業」

【主な意見等】

(河上副会長):報告書案 57 ページの複数意見で、「必要な防災備品を並べて買ってもらおう」という表現があるが、なくてもいいのではないか。

(福井委員):区として一覧表を作ってという意味で言っている。現金支給から現物支給にしたらいいいのではないかとということである。現金を渡しているの、町会で何を買っていいかわからない。最低限常備に必要なものと次に必要なものとリストアップして、をつけてもらうようにしたらいいいということである。

(福井委員):新しい町会では、この補助金に加えて新規に 20 万円の補助が出る。報告書の例では、水を買っているが、水は区からも別に現物の補助がある。防災備品は、区としては結構な補助金額なので、何が必要なのかを決めて把握するためにも、現物支給が一番いいのではないか。

(河上副会長):総合評価の文章と 57、58 ページの福井委員の支給方法の話と鏡会長の管理の指摘があるので、そこを最初の複数意見に含めて書き直し

たらどうか。2番目の複数意見は、私が要綱について発言している意見や高橋委員の手続きについての意見を書いてもらってはどうか。

(齋藤委員): これからの時代を考えると住民防災組織は有効であり、会長も「これからのネットワークが課題であるが将来的に必要」、高橋委員も「防災対策は区の啓蒙活動で必要」と書かれている。防災がメインとしても、防災に限らず地域全体の連携がこれからは必要であると提言したらどうか。

(鏡会長): 必要なものは連携であり、「多くの人たちが協力して防災に当たれるような中身になってほしい」ということでいいか。

「コミュニティ機関紙発行助成事業」

【主な意見等】

(河上副会長): 総合評価と63ページの「高齢者はインターネットを使えない」という書きぶりであるが、文面について若干違和感がある。利用者は高齢者が多いという実態があると思うが、わざわざ高齢者がインターネットを使えないと書かなくてもいいと思う。委員会の意見として高齢者と限る必要はないのではないかと。高齢者ではなく、他の言い方をした方がいいと思う。

(鏡会長): 「多様な主体」についての例であるが、地域の商店街やお祭りとか、地域で暮らしている人に有用な情報があるが、必ずしも行政ベースでは聞き取れないものもある。全て補助金で運営するのではなく、地域が主体になるコミュニティペーパーになったらいいのではないかとこの意見である。

(高橋委員): 総合評価理由の「また」以降であるが、「機関紙を作る目的が曖昧」なのと、「補助の方向について見直しが必要」というところはつながっている。しかし、印刷機の使用法に課題があるというのは別の問題ではないか。コミュニティ機関紙の役割と区の関わり方を見直した方がいいという意見だと思うので、書き方を変えた方がいいのではないかと。

(鏡会長): 「新たなメディアを使った周知方法も検討すべき」、「情報弱者にも

配慮すべき」、「コミュニティ機関紙としての機能が幅広く保てるような新たな方法も考えるべき」ということでいいか。

「コミュニティ掲示板新設・改修助成事業」

【主な意見等】

(鏡会長): 委員会評価はCであるが、全体を見るとCの意見があまりなく、Dの意見が強いのではないか。特に、「区からの掲示物が100件ある」とか、「5年に1度定期的にお金を使わなければいけない構造になっているのはいかがか」などの意見は引っかけた。C評価なので、「速達性、耐用性、柔軟性」など、掲示板についての肯定的な意見も含め、改善の方法を多く上げる方がいいのではないか。

(齋藤委員): 複数意見の1番目であるが、「区の直接事業としたらどうか」という意見に対して、「区が実施する方がお金がかかる」というコメントであった。意見としてはいいが掲載すべきか疑問である。

(鏡会長): 「企業やNPOの力を活用した情報伝達方法も考えるべき」という意見でいかがか。

(河上副会長): 情報弱者の観点と、たとえICTのリテラシーが高くても、検索機能は関心のないものは検索しないので、情報に受容的であればあるほど、紙が有効な場合もある。紙のもつアクセス容易性の特徴性は掲示板でも指摘できるのでないか。67ページに福井委員の意見として「管理の実態にはばらつきがあるので、区が管理した方がいい」と書かれているが、ニーズや方法のばらつきもあるので、それを踏まえた上で、企業やNPO、町会との協力もあるのではないかと思う。

(河上副会長): 掲示板の維持管理について、複数意見の書きぶりでは、ハードの話とソフトの話をも混同しているので、しっかり書き分けた方がいいと思う。ソフト面では、情報の整理や掲示物のメンテナンスは企業やNPOにも協力していただく、また、ハード面は新設と改修に至るまでの管理ということだと思う。

(高橋委員): 資料を拝見したときに、区の利用が多いようだったので区がやるべきだと思った。もともと、自治会や町会が情報共有に利用するものならば、中で完結していい話だと思う。そのコミュニティで掲示板が必要ならば掲示板を使えばいいし、回覧板が必要なら回覧板でいい。町会で決めればいいのに、区の利用があるために必要という前提になっている。地域で有効な手段があるにも関わらず、掲示板ありきの補助金で画一的に設置しなくても、任せていいのではないか。

(鏡会長): 行政が入ると規制が多く後退した管理になってしまう。現実には 300 万円のお金が出ているので費用対効果を考える必要がある。河上副会長が言われた「紙のアクセス性の良さや速達性などから掲示板の必要性は認められるが、マンションなど様々な人の暮らしが変化していること、情報そのものが変化していることを考えると新たな補助金の内容を検討することが必要」ということでよろしいか。

「区内生産品販路拡張補助事業」

【主な意見等】

(鏡会長): 齋藤委員は、「補助を受けている側に都合のいいしくみになっている」と書かれているが、どういうことか。

(齋藤委員): 行政が販路の情報を共有しようとしても、業者が情報を公開しないのはおかしいのではないかという考えである。また、申請した団体には補助金が出るが、構成員数が少ないとか補助対象にならないなど、不公平感があると思う。その見直しを検討する余地があると思う。

(高野企画経営室長): 団体・組合が対象だが、個々の企業でも 5 社以上まとまれば、誰でも申請できるような仕組みにしているので不公平はないようにしている。

(齋藤委員): 実際どのくらい申請されているのか、全体がわからない。毎回、通っている団体が決まっているようなので、そういう企業が有利に扱われているように思える。

(鏡会長):「同業他社への情報共有や競合他社との事業者同士の競争を喚起するしくみを作る」を複数意見に入れてはどうか。高橋委員の自立化はどういうことか。

(高橋委員): 販路拡大はどこの事業者でも企業努力で目指すべきことである。区が補助金を入れるなら区としてどんなメリットがあるのか、どこを伸ばしていきたいのか、目的意識を持って出すべきである。期限を区切り、効果が出ないならやめるとか、メリハリを付けて行うべきだと思う。また、どのくらい売上が上がったかという情報も入手していない。補助金を出しているなら、成果などの報告を受けるべきである。

(鏡会長):「本来自主的な経済活動に関して区が補助を出す理由の精査と期間の設定を明確にすべき」を複数意見に入れることとしたい。

(河上副会長): 委員会評価の冒頭で、「地域の活性化」とあるが、これは漠然としている言葉なので、地域産業とか地域経済という言葉を入れた方がいいと思う。

(牟田口委員):「奨励的補助であるべき」という意見にもかかってくるが、「競争力」という文言は入れなくていいのか。維持運営経費ではなく、競争力をつけるためのものではないのか。団体とはいえ、同じところがずっともらっている。墨田区地域が勝たなきゃならないのに、補助金を出して逆に弱めているのではないか。

(鏡会長):「地域産業の活性化や区内生産品の販路拡張に対する補助の必要性は認められるが、補助の効果が見えにくいいため、補助した産業が活性化していくように現状の効果を様々な視点から細かく確認していくべき」でどうか。牟田口委員の競争という言葉は活性化に置き換えることとしたい。

「3M 運動推進事業」

【主な意見等】

(牟田口委員): もの作りが主体なのか、見せるのが主体なのか、大きな転換期だと思う。見てみたいではなく、やってみたいと思わせなければならない。博物館という以上は、リピーターになるようでないと、逆に見くびられてしまう。

(福井委員): 「もの作りと観光の連動」という表現を入れたらいいのではないか。また、ものを作る体験できる施設が3、4カ所あるが、そういう体験をさせているところと、ただ見せるだけのところとが同じ補助となっているのはおかしいのではないか。

(牟田口委員): 人作りはやっているのか、もの作りと観光の組み合わせが大切である。もの作りでは、博物館は逆にイメージは悪いのではないか。

(齋藤委員): 報告書案の中で、福井委員は「3M 推進は30年続いて良いこと」と書かれているが、鏡会長は違うことを言っている。事業が30年続いているのはいいが、補助金が続いていることがいいこととも聞こえる。補助金はいつ無くなってもいいものではないか。推進は何十年継続していてもいいが、補助金を継続するのは別ではないか。補助金を見直すというのは根幹の話しをしていると思っている。

(鏡会長): 牟田口委員の「産業振興の補助金は奨励的なものであるので見直すべき」という意見、また、牟田口さんと福井さんの「マイスターについて情報提供して墨田区の工芸品についてより積極的に周知すべき」という意見、さらに、国に類似補助金があることから、「マイスターと継続振興補助は奨励的にすべきで統合化も含めて見直していく」という意見を複数意見に加えたい。

(鏡会長): 以上、15事業の報告書案の内容点検を行った。今回の審議を踏まえ最終案の報告書は、あらためて各委員にお送りする。それまでに体裁を含めた内容の修正は、私と事務局に一任でお願いしたい。

以上をもって、第6回区民行政評価委員会を閉会。